



2016年1月15日 発行

2016年 冬号

< 第 33 号 >

編集・発行/社会福祉法人ワークスユニオン 代表/池田嘉徳 〒551-0001 大阪市大正区三軒茶屋1丁目17-18 TEL:06(6556)0881 FAX:06(6556)0882 info@works-union.org http://works-union.org/tayori.html

和旅行の事

この間の宴会は楽しかったです。伊勢神宮内宮岩戸屋行った。うどんを食べに行っ

た。
二見シーパラダイス アシカを見にきた。おみやげを買った。斉藤は、赤ふくを買った。

鳥羽シーサイドホテル。また来年も行きたいです。温泉に行った。夕食は宴会をやった。

「これから宴会を始めますよろしく！」斉藤は銭形平次をやった。

斉藤は銭形平次の曲や影の軍団の曲聞きたいです。また来年も宴会は、影の軍団です。

しますスペイン村です。

ぐるぐる電車と観覧車につた。とても楽しかったなあオッケー

来年も和旅行期待していますよ 来年はおきなわか奈良にいく。よろしく!

斉藤 毅士

秋のイベント 大報告会

今年九月は、六年ぶりのシルバーウィークが発生し、暦の上では五連休。ユニオンの利用者さんは、五連休を「やったー」と喜ぶ人もいましたが、どちらかと言うと「連休、何しよう？」と悩む声の方が多かったような気がします。そこで、五連休の一日を事業所開所日とし、それぞれの事業所で、日常の作業や活動とは違うイベントを企画してみました。さて、どんな活動になったのでしょうか？

和・匠・ワークス歩

合同和太鼓体験

今回の活動は、利用者さんの中に和太鼓の楽しさを実際に聴いて、叩いて体験してもらいたいと思い、和太鼓団体「円陣」の方に来ていただき実現しました。午前中に和・匠が体験し、午後ワークス歩が体験していきます。

最初に、「円陣」の方による演奏を観賞し、その後利用者さん達が和太鼓を叩いて体験する流れでした。太鼓を準備し、叩き始め

様子が印象的でした。

演奏が終わり、体験の時間になると、「やってみたい！」と皆さん一斉に前に出てきました。太鼓はすぐに埋まり、順番に並んで叩く事になりました。

初めからリズムに合わせて叩いている人、自分の好きなようにひたすら叩いている人、大きな音は出さずに小さくゆっくり叩いている人など様々でした。

何度か練習した後には、利用者さん同士でタイムイングを合わせて叩く時間もありましたが、お互い顔を見合わせながらとても良い表情で叩いていました。

鑑賞から体験まで、終始楽しい時間になり、「円陣」の方からも「ここまで楽しんでもらえるとは思わなかったです。」「利用者さんのパワーがすごくて驚いた！」「自分たちも、楽しみながやらせてもらえて、本当に良かったです！」と言って頂きました。

今回の活動を通して、普

段なかなか体験できないような活動を提供する大切さを、改めて感じました。今後も、利用者さんが楽しめる活動を考えていきたいと思えます。

(横田)

ワークス集・翔 合同野外活動

今年も保護者さんご協力の元、ワークス集・ワークス翔合同で、野外活動を行いました。当日は天気もよく、たくさんの方とパーベキューを行うことができました。

今年もお肉や野菜だけでなく、保護者さん手作りの

豚汁や焼き芋、焼きそばにおにぎり等、種類豊富な食べ物が並び、この日を心待ちにしていた利用者さんからは自然と拍手がおきました。気持ちの良い気候の中で食べるパーベキューは格別のようで、食べ物を見る見るうちに無くなり、食後はサッカーや野球をする方、テントの下で眠っている方、職員や保護者さんと話したり散歩に行く方など、それぞれ自由に過ごしました。

最後にメインイベントのスイカ割り全員で行いました。目隠しをしてグルグル回ると方向が分からなくなりませんが、事業所関係なく「頑張れ！」と応援の声が響き、スイカに当たると歓声が上がりました。

切り分けられたスイカを食べながら、ある利用者さんは「前まではこのメニューでご飯食べてたのに、もう野外活動くらいやな。寂しいな。」と話しました。又、言葉には出しませんが、普段の食事に参加しない利用

者さんも野外活動には毎年参加する方もいます。その意味とは何なのか。わけ隔てなく応援をし、共感し合える関係性の中に、以前はワークス集・ワークス翔と同じ建物の中で働いてきた仲間としての絆のようなものがあるように感じられました。

建物が変わっても、本人たちにとって伝統のようなこの機会を、一年に一度ではあります。大切にしていきたいという利用者さんの思いを感じました。

(萩原)

OMC 大阪市内散策

今回のテーマは「仕事から離れた楽しみと、仕事に関連した楽しみ、両方とも味わえる行事」でした。

まず向かったのは難波にある「無印良品」と「ロフト」の見学。無印良品のお店では、私達が作った商品の陳列棚に向かって進みます。実際に商品が見つかる

と「あったー!」「これやこれ!」などと、とても誇らしそうな笑顔で、商品に入っていました。また、隣接するロフトでは、無印良品のお店とはまたひとあじ違った雰囲気の中、これから作る商品がここで展示、販売されるかもしれないとの説明に「そうなんや」「すごいなあ」という声。しばらくの間、あちこちの陳列棚を見てまわっていました。昼食は難波にある老舗洋食屋「明治軒」での食事会です。それぞれに好みのメニューを注文し、皆おいし

そうに頬張っていました。昼食後は森之宮に移動し、歴史博物館とNHK大阪

放送局の見学です。一昔前の大阪の様子や、テレビ撮影のセット見学などに皆さん興味津々な様子でした。時間いっぱいまで資料を読んだり、パソコンを操作したりと各自楽しい時間を過ごしました。

最後はみんなで大阪城天守閣の見学です。その日は連休初日という事もあり、城内はかなりの混雑でしたが、天守閣に登るのは今回が初めてという方もいて楽しそうにされていました。

たぐさんの距離を移動し、最後は皆くたくたでしたが、盛りだくさんな内容で、充実した一日となりました。

OMCは、企業の中で働いている事もあり、一日の外出の機会はほとんどなく、休日も家でゆっくり過ごす方が多いため、今回の外出は、仕事では体験できないことを味わう一日になったようです。

(多田)

就労・グループホーム USJ

シルバーウィーク初日、ユニオンの就労・GHの利用者さんとユニバーサルスタジオジャパンへ行ってきました。

「広い園内をゆっくり散策したい」・「絶対あのアトラクションに乗りたい」・「とにかく久しぶりなので新しくなった施設を楽しみたい」等、それぞれ目的ごとに各チームに分かれて行動する事にしました。

話題のハリポッターエリアでは「映画と一緒や」や「本物みたい」との声が聞こえてきたので散策だけでしたが、まずまずは楽しめたのではないかと(アトラクションは待ち時間が四時間以上あったので断念)。昼食は各チーム集まって同じ店で食べました。その時、他のチームがどんな施設に行ったのか、何が楽しかったのか情報交換をして、午後からの予定をしっかりと

組んでいました。

中には「今日の目的はお土産!」と言っていたので何件ものお店を回って真剣に吟味してお土産を購入。後はベンチでゆっくり休憩していたのですが、気がつくくと全参加者の中で一番日焼けをしていました。他の人は結構、園内を歩き回ったはずなんです。後日、疲れなかったか心配して声をかけてみました。が誰一人として同意はしてくれませんでした。それどころか残りの連休、余暇とふうせんバレーの合宿に参加した強者もいました。

(助野)



山川さんは存命中「日常的な活動だけでなく、人間には生活に色を添える非日常的な活動が大切なんだ！」と言って、利用者の誕生日には必ずパーズデーカードを配り、「突然の飲み会」を企画したり、誕生月の職員には職員会議の席でプレゼントと「お祝いの歌」で祝っていた(プレゼントのほとんどはパンツなので私は閉口していたのだが)。

「外食」や「家族旅行」の習慣も無く、これといった趣味も持たない私は、休日には草花の手入れに始終しておりそれで満足しているような人間なので、「非日常的な活動」の必要性を感じたこともなく、むしろ日常的な活動の連続の方が好きなのだが、多くの利用者や職員には、旅行や食事会などの「非日常的活動」も重要なのだろう。

多くの利用者が楽しみにしている「事業所旅行」。金メダルを目指して参加する「スポーツフェスタ」。ちよつとおしゃれして参加する「忘年会」。日ごろ見られない、雪山での「雪遊び」。

ヘルパーと二人で、または数名の利用者とヘルパーで行く「グループホーム旅行」。

試合で優勝することを目指して練習に励む「ふうせんバレー」。

先生に叱咤されながらも、舞台発表に向けて懸命にがんばる「ダンス」……。

山川さんの言うところの「非日常的活動」も少しずつ増えてきた。

職員諸君、利用者の生活に彩を添える企画も大切にしよう。

職員紹介

南石 愛 (まな) 61歳

幼少期から父親の職場に行くなど、障がい分野は身近な存在で興味があったと話す彼女。趣味は、中学生から続けているクラリネットの演奏。別名を「吹奏楽の甲子園」と呼ばれる全日本吹奏楽コンクールの出場経験があり、金賞を受賞されたほどの実力だそう。

今後は音楽教室に通い、アンサンブルにも挑戦してみたいそうです。

部署内で飛び交う、どんなにお寒いギャグにも笑顔

編集後記

で反応してくれる優しきがある彼女は、「利用者さん一人ひとり信頼関係を築き、安心して関わってもらえる支援者になれるように努力したい」と語ります。

榎本 愛子 (まな) 67歳

福祉の仕事が始めて10年、そのうち障がい分野は5年ほどになるそうです。「色々な経験を積んでいきたい」との思いで、高齢分野での仕事の傍ら、障がい分野にも携わったなど、アクティブな一面も垣間見られます。

そんな彼女は、流行の外ドラマを見ながら、ゆっくりとお風呂に入るのがマイブーム。半身浴だと、何時間も過ごすことができるそうです。

これからの目標は、これまでの経験を活かし、障がいのある高齢者の支援を行うことと聞きました。

今後は、毎日の支援でスキルを磨き、幅を拡げていきたいそうです。(高橋)

「利用者主体」という言葉がある。支援の原則として、学生時代に懇々と聞かされた言葉だ。▼利用者さんの思いを汲み取り支援することが我々支援者に求められる。▼しかし、この言葉は難しい。希望しているからと、利用者さんの思い通りに物事を進めることが必ずしも相手のためにならない場合もある。▼見極めをすることはさらに難しい。甘えや逃げの気持ちから出る表現もあるだろう。▼人は誰しも弱さを持っている。それ自体は悪いことではないが、支援者はどこまでを受け入れるか迫られる時がある。その微妙な匙加減をその言葉は教えてくれない。▼人は個と社会の狭間で生きていく。私も自分の想いと社会との狭間で思い悩んだように、利用者さんも悩む権利がある。悩んだ先にある光を共に見られる支援をしていきたい。(H)